

枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ

長野県佐久市岩村田上直路遺跡Ⅲ発掘調査報告書

2007.3

渡辺一男
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は渡辺一男による集合住宅建築事業に伴う枇杷坂遺跡群上直路遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市岩村田857-1
渡辺 一男
- 3 調査主体者 佐久市中込3056
佐久市教育委員会
教育長 三石 昌彦
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地
枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ (IBKⅢ)
佐久市岩村田字上直路1086-1, 1086-3
- 5 調査担当・編集・執筆 上原 学
- 6 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。
H—竪穴住居址 M—溝跡 D—土坑
- 2 スクリーントーンは以下の通りである。

遺構		掘方	
地山断面			
遺物		黒色処理	
赤色塗彩・朱			



調査区位置図(1:100,000)

- 1 押図の縮尺は以下の通りである。
遺構 竪穴住居址・土坑1/80 溝跡1/100
遺物 土器 1/4
- 2 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 3 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。
- 4 調査グリッドは4×4mである。

目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
1. 立地と経過	1
2. 調査体制	1
3. 遺構と遺物の詳細	2
4. 基本層序	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	2
H 1号住居址	2
H 2号住居址	5
H 3号住居址	6
H 4号住居址	8
H 5号住居址	9
M 1号溝跡	11
D 1号土坑	11
写真図版		
抄録		



調査区位置図(1:10,000)

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過

枇杷坂遺跡群上直路遺跡Ⅲは佐久市岩村田市街地北西の浅間山の麓から放射状に延びる田切り地形の台地南端付近に位置し、現況は南西に向かって緩やかに傾斜する。標高は716m内外を測る。

周辺地域には多くの遺跡が所在し、弥生時代から平安時代を主とする遺構が多数発見されている。代表的な調査としては、対象地西側にて弥生時代後期の住居址2軒、古墳時代の住居址3軒を調査した上直路遺跡をあげることができる。このうち弥生時代の住居内には、住居廃絶時に埋葬されたと思われる屋内埋葬墓が存在し、両腕に併せて14点以上の帶状円環形銅鏡をはめた人骨が発見され注目された。これまで佐久市内の調査によって、弥生時代の青銅又は鉄製鏡を出土した遺跡は銅鏡が上直路遺跡1号住居址屋内埋葬墓、五里田遺跡2号円形周溝墓、北一本柳遺跡1号住居址・1号土坑墓、円正坊遺跡V1号住居址、清水田遺跡II号住居址、鉄鏡が上直路遺跡2号住居址、五里田遺跡5号住居址、後家山遺跡1号木棺墓など数多く認められる。のことから、佐久地域において金属製鏡は身分を示す上で重要な装身具の一つであった可能性も考えられる。

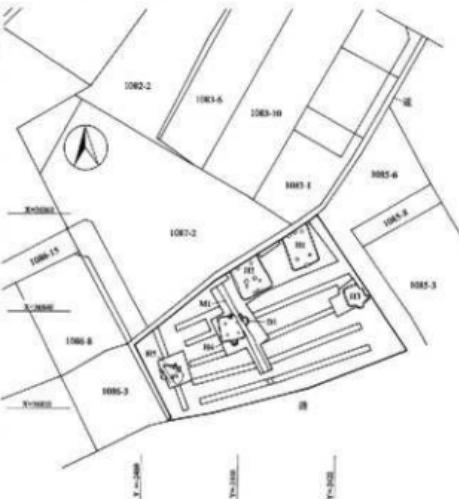
今回、集合住宅建築事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。結果、住居址5軒・溝跡・土坑が認められたことから、事業主体者と協議を重ね、遺構の記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施する運びとなった。

2. 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	三石 昌彦
事務局	社会教育部長	柳沢 義春	
	文化財課長	中山 悟	
	文化財保護係長	高村 博文	
	文化財調査係長	高柳 正人	
	文化財保護係	荻原 留美	高橋 浩一
	文化財調査係	林 幸彦	須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也
		富沢 一明	神津 格 上原 学 出澤 力
調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子	調査副主任 塙 益子
調査担当者	上原 学		
調査員	阿部 和人 甘利 隆雄 市川 昭 碓水 知子 江原 富子		
	柏木 貞夫 柏木 義雄 加藤 信一 菊池 茜重 小林百合子		
	小山 功 清水 信一 中嶋フクジ 林 美智子 織萱ミスズ		
	武者 幸彦 百瀬 秋男 山田 和子 油井 陽介 渡辺久美子		
	渡辺 長子		



上直路遺跡屋内埋葬墓銅鏡出土状況（S60年調査）



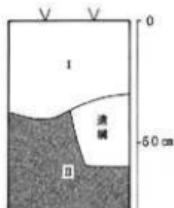
試掘トレンチ・遺構配置図(1:1,000)

3. 遺構と遺物の詳細

遺構 穴住居址 5軒（弥生時代後期2軒 古墳時代後期3軒） 溝跡 1条（古墳時代以降）
土坑 1基
遺物 弥生土器（甕・壺・鉢・高杯・瓶） 土師器（壺・甕・壺・瓶・高杯・鉢・すり鉢・石）

4. 基本層序

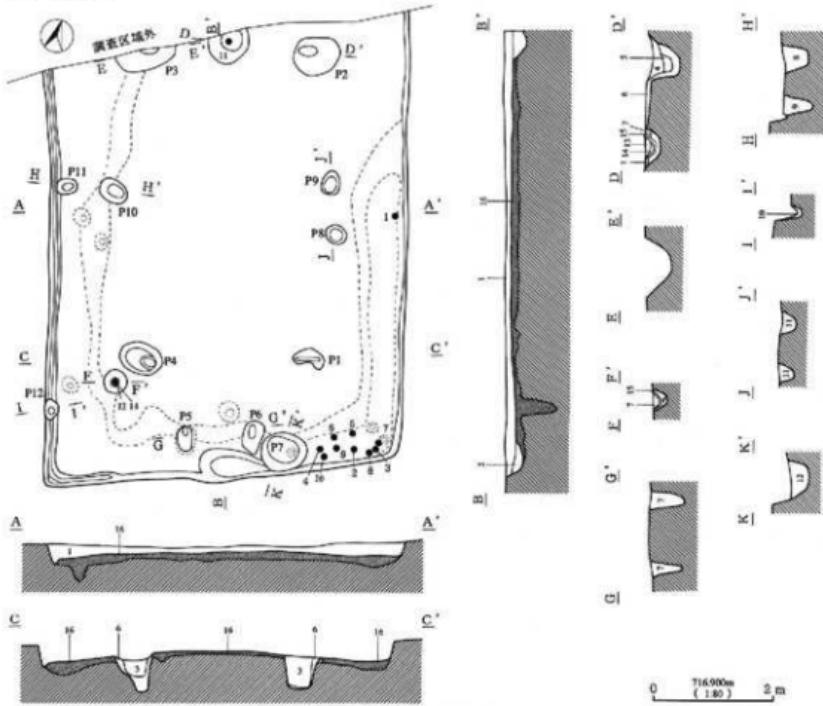
佐久市北部の台地上は、現在の浅間山が形成される以前 2,800mを超える火山であった黒班火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在の浅間山の中心を成す前掛山に成長する際、降下火山灰及び軽石流が大きく 2 度に渡り堆積した。（下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P 1、佐久市北端地域の第二軽石流・P 2）その厚さは地域によって 20m を超え、この堆積した黄褐色土を表土である黒褐色土が覆っている。調査対象地は果樹園として利用されていた地域で、遺構確認面までの層厚は 30cm 内外と薄い。層序は上層から層厚 30cm 内外の表土、遺構確認面である黄褐色のローム土である。



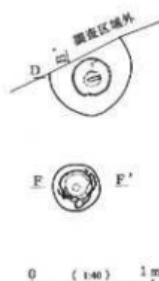
基本層序模式図

第二章 遺構と遺物

H 1 号住居址



H 1 号住居址実測図(1)



1. 緑褐色土 (10YR5/5) 塗化物、礫石。2-3cm含む。
2. 黄褐色土 (10YR3/2) 極化物や多い。3-5cm含む。
3. 褐褐色土 (10YR3/4) 砂質、2-4cm多い。
4. 布葉褐色土 (7.5YR3/3) 1-3cm、礫石少量。
5. 黒い褐褐色土 (7.5YR2/5) 1-3cm主。
6. 黒い褐褐色土 (7.5YR3/6) 1-3cm主。
7. 黑褐色土 (10YR2/5) 1-2cm少。
8. 黑褐色土 (7.5YR4/5) 2-4cm少。礫石含む。
9. 黄褐色土 (10YR3/5) 3-5cmの混合土。
10. 墓床尾色土 (7YR4/4) 3-5cm、礫石少量。
11. 塗褐色土 (10YR3/5) 1-2" 2-3" 粒子、礫石含む。
12. 褐褐色土 (10YR3/4) 3-5cm、礫石含む。
13. 茶褐色土 (10YR3/4) 1-2cm多い。礫石含む。
14. 黑褐色土 (10YR2/2) 粒子混、塗化物。
15. 塗黒褐色土 (7.5YR2/2) 1-3cm、礫石。
16. 黑褐色土 (7.5YR4/6) 微量。(無)

H 1号住居址炉跡実測図



H 1号住居址遺物実測図(1)

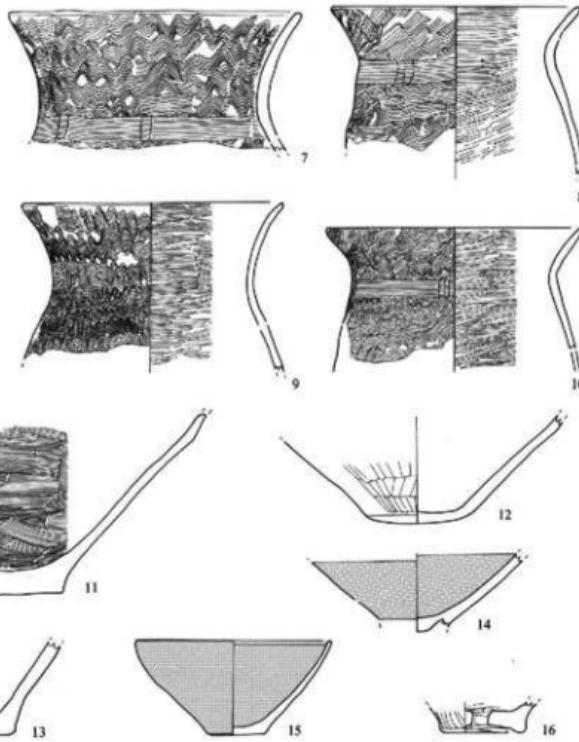
遺構は対象地の北東隅に位置し、北側4分の1弱は調査区域外となる。平面形態は長方形と思われる。規模は東西5.8m、南北は確認規模の最大で7.4m、確認面から床面までの深さは中央部で5cm、壁際で35cm内外を測る。覆土は単層で暗褐色土が埋め込まれていた。床面は堅く土間状を呈し、中央付近がやや高く、壁際に向かって緩やかに傾斜する。西壁際から南壁の一部まで幅18cm、深さ10cm程度の周溝が巡らされていた。ピットは床面上から12個認められ、P 1

～P 4は主柱穴で平面形は橢円形である。南壁際中央付近のP 5・6も形状は橢円形を呈し、位置的に入口と思われる。P 6の東に接するP 7は小型だが貯蔵穴である可能性が考えられる。

炉は北側の主柱穴であるP2・3間に及びP4南西壁の2箇所に位置し、ともに壺底部周辺を埋設する。南西隅に位置する炉は小型の簡易的な炉であるが用途は不明である。掘方は10~15cmの厚みで褐色土が埋め込まれ、上面は硬化している。床下から性格不明の小ピット6個を確認した。

遺物は弥生土器の甕・壺・鉢・高杯・瓶・すり鉢等が出土し、特に東壁際、南東壁際から出土した土器は良好な状態を保っていた。また、土器が集中した南東壁際では甕の胴部から下部を欠損した口縁周辺部を器台として利用していた状況が確認できた。

本住居址は、住居址及びピットの形状、主柱穴間に位置する炉、出土遺物の特徴から弥生時代後期箱清水期とした。



H 1 号住居址遺物実測図(2)

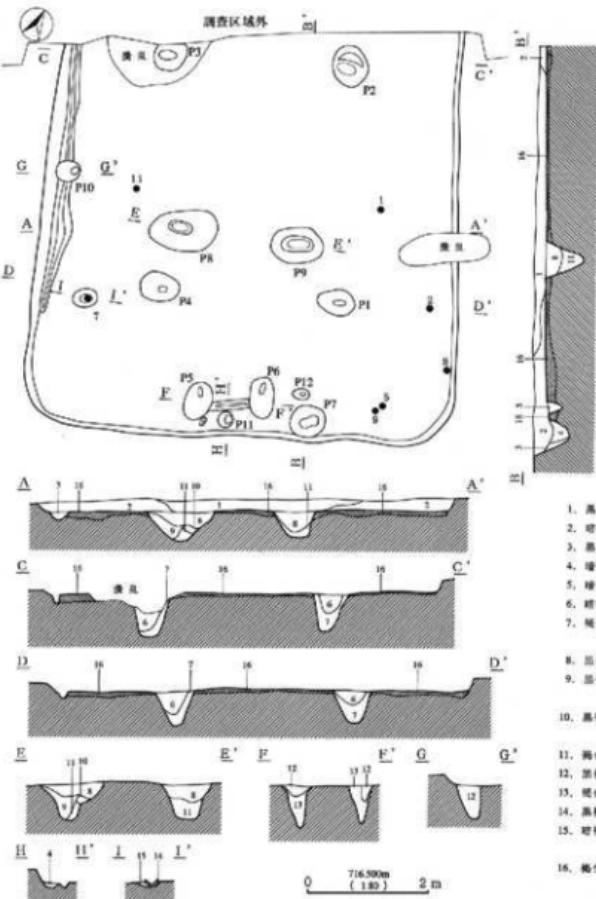
番号	器種	形 種	口径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	底面・内面	特徴・経緯	備 考
1	弥生土器	甕	23.4	9	34.8	内面縁部粗面化(33.5~34.8cm)、底面縁部粗面化(33.5cm)、底面正方形、	内面縁部粗面化(33.5~34.8cm)、底面正方形	16
2	弥生土器	甕	(29.2)	8.7	35.1	底面縁部粗面化(29.2cm)、底面縁部粗面化(35.1cm)、底面正方形	底面縁部粗面化(29.2cm)、底面正方形	16
3	弥生土器	壺	21.8	7.2	30.0	内面縁部粗面化(21.8cm)、底面縁部粗面化(30.0cm)、底面正方形	内面縁部粗面化(21.8cm)、底面正方形	16
4	弥生土器	甕	24.6	9.0	30.4	内面縁部粗面化(24.6cm)、底面縁部粗面化(30.4cm)、底面正方形	内面縁部粗面化(24.6cm)、底面正方形	16
5	弥生土器	甕	12.6	6.2	19.7	内面縁部粗面化(12.6cm)、底面縁部粗面化(19.7cm)、底面正方形	内面縁部粗面化(12.6cm)、底面正方形	16
6	弥生土器	甕	12.7	5.3	13.1	内面縁部粗面化(12.7cm)、底面縁部粗面化(13.1cm)、底面正方形	内面縁部粗面化(12.7cm)、底面正方形	16
7	弥生土器	甕	24.1	—	—	内面縁部粗面化(24.1cm)、底面縁部粗面化(24.1cm)、底面正方形	内面縁部粗面化(24.1cm)、底面正方形	16
8	弥生土器	甕	26.6	—	—	内面縁部粗面化(26.6cm)、底面縁部粗面化(26.6cm)、底面正方形	内面縁部粗面化(26.6cm)、底面正方形	16
9	弥生土器	甕	21.6	—	—	内面縁部粗面化(21.6cm)、底面縁部粗面化(21.6cm)、底面正方形	内面縁部粗面化(21.6cm)、底面正方形	16
10	弥生土器	甕	21.1	—	—	内面縁部粗面化(21.1cm)、底面縁部粗面化(21.1cm)、底面正方形	内面縁部粗面化(21.1cm)、底面正方形	16
11	弥生土器	甕	—	14.2	—	内面縁部粗面化(14.2cm)、内面縁部ハナナ字	内面縁部粗面化(14.2cm)、内面縁部ハナナ字	16
12	弥生土器	甕	—	8.3	—	内面縁部	内面縁部	16
13	弥生土器	甕	—	14.1	—	内面縁部	内面縁部	16
14	弥生土器	高杯	—	—	—	内面縁部の埋没部、上部手	内面縁部の埋没部、上部手	16
15	弥生土器	甕	16.1	4.7	7.8	内面縁部粗面化、上部手	内面縁部粗面化、上部手	16
16	弥生土器	甕	—	2.5	—	底面丸、口径(4.0cm)、外縁部手、内面手	底面丸、口径(4.0cm)、外縁部手、内面手	16

H 1 号住居址遺物観察表

H 2号住居址

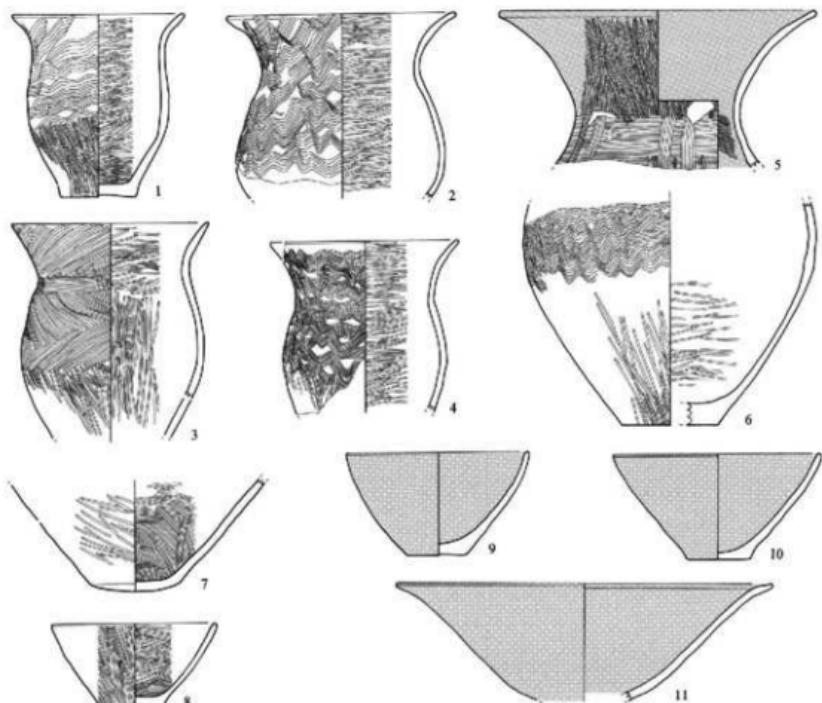
遺構は対象地北東に位置し、北側は調査区域外となる。平面形態は隅丸の長方形と思われる。規模は東西7.2m、南北は確認規模で6.5m、確認面から床面までの深さは最深で20cmを測る。覆土は2層確認でき、壁際から流れ込んだ状況が認められることから自然堆積の可能性が伺える。床面はH1号住居址ほどではないが、やや硬質平坦で西壁際のみ周溝が存在した。ピットは床面上から12個認められ、P1～P4は主柱穴、P5・6は入口に関すると思われ、ピット間に溝状の掘り込みを有する。形状は楕円形である。P6の東脇にはH1同様小規模で円形のピットが存在する。またP1・4の北側に近接して、主柱穴以上の規模を持つ楕円形のピットが存在するが、用途は不明である。如はP4の西に上器片を埋設した小型のものが認められたが北側ピット間に存在しなかった。北側隣接地の試掘調査によって、本住居址の北側部と思われる掘り込みが区域外3.5mの付近まで確認されていることから、住居址の南北長は実際10m以上を測る住居で、炉はP2・3間のやや北側の調査区域外に存在すると予測される。掘方は5cm内外と薄く、全体にやや堅さを持つ。遺物は弥生土器の甕・壺・鉢・高環が出土し、南東隅周辺から比較的形状の残る遺物が出土している。

本住居址は、住居址の特徴がH1に類似すること及び出土遺物から弥生時代後期霜清水期としたい。



H 2号住居址実測図

1. 黒褐色土 (10YR2/3) ±-k粒。砾石、黄化物。
2. 明褐色土 (10YR3/2) ±-k粒。砾石、黄化物。
3. 黑褐色土 (10YR2/3) ±-k粒。砾石。
4. 墓褐色土 (10YR3/4) ±-k粒±少々。
5. 墓褐色土 (10YR3/3) ±-k少々。砾石。
6. 墓褐色土 (10YR3/4) ±-k多い。砾石。
7. 黑褐色土 (10YR4/6)
8. ±-k主体。黑褐色土少々含む。
8. 墓褐色土 (10YR2/2) ±-k粒。砾石。
9. 墓褐色土 (10YR2/2)
10. 黑褐色土 (10YR2/1)
11. 砂岩、墓褐色土多い。
11. 黄褐色土 (10YR4/6) ±-k主体。
12. 墓褐色土 (10YR2/2) ±-k粒少々。
13. 黑褐色土 (10YR4/6) ±-k主体。黒褐色土含む。
14. 黑褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土、±-k粒。
15. 墓褐色土 (10YR2/3)
16. 黑褐色土 (10YR4/4)
16. 黑褐色土 (10YR4/4) ±-k多い。しまりややあり。(細粒)



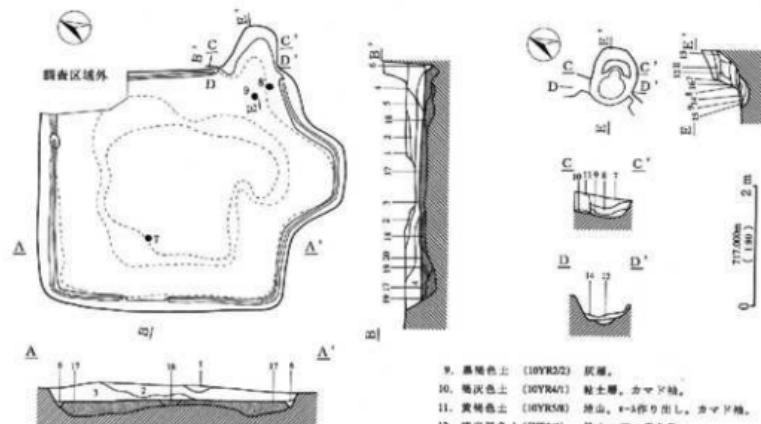
H-2号住居址遺物実測図

番号	材 質	部 分	目測cm	実測cm	厚さcm	測 定 文 献		検出場所	備 考
						測定上部	測定下部		
1	陶土器	壺	14.2	8.2	1.5	内面斜面と手刷毛の入った本底。底部に不規則な凹凸	50	外周175cm/内周150cm	
2	陶土器	壺	16.9	—	—	内面斜面と手刷毛の入った本底。	測定上半～口縁	外周193cm/内周160cm	
3	陶土器	壺	16.2	—	—	内面斜面と手刷毛の入った本底。底部に不規則な凹凸	測定～口縁	外周175cm/内周150cm	
4	陶土器	壺	15.6	—	—	内面斜面と手刷毛の入った本底。底部に不規則な凹凸	測定～口縁	外周175cm/内周150cm	
5	陶土器	壺	16.2	—	—	内面斜面と手刷毛の入った本底。底部に不規則な凹凸	測定～口縁	外周175cm/内周150cm	
6	陶土器	壺	—	3.6	—	内面斜面と手刷毛の入った本底。底部に不規則な凹凸	底部～口縁	外周175cm/内周150cm	
7	陶土器	壺	—	7.8	—	内面斜面と手刷毛の入った本底。底部に不規則な凹凸	底部～口縁	外周175cm/内周150cm	
8	陶土器	壺	13.6	5.2	0.9	内面斜面と手刷毛の入った本底。底部に不規則な凹凸	100	外周160cm/内周130cm	
9	陶土器	壺	15.3	5.1	0.5	内面斜面と手刷毛の入った本底。底部に不規則な凹凸	90	外周175cm/内周150cm	
10	陶土器	壺	17.1	5.2	0.8	内面斜面と手刷毛の入った本底	50	外周180cm/内周150cm	
11	陶土器	壺	16.1	—	—	内面斜面と手刷毛の入った本底	100	外周175cm/内周150cm	

H-2号住居址遺物観察表

H-3号住居址

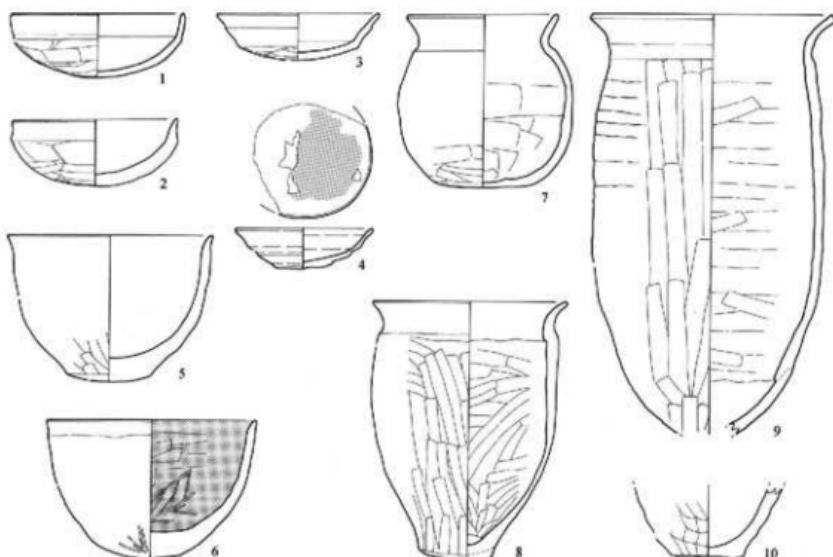
遺構は対象地東端に位置する。平面形態は方形で南壁中央に張り出し部を持つ。規模は東西4.1m、南北4.0m、張り出し部を含め4.8m、確認面から床面までの深さは30cm内外を測る。覆土は北壁側から流れ込んだ状況が認められることから自然堆積の可能性が伺える。床面は硬質で壁際には周溝が存在する。ピットは壁際で小ピット1個が掘り込まれていたほか、床下からも確認できなかった。カマドは東壁の南端に位置し、火床に焼土・灰・炭化物が堆積していた。袖が住居内に張り出さず壁外に火床が設置された形態と思われる。掘方は中央が高く周囲の低くなったドーナツ状に掘り込まれていた。遺物は土師器の壺・甕・鉢・高环脚部欠損後転用壺?が出土した。本住居址は出土遺物の特徴から古墳時代後期、7世紀とした。



1. 粘褐色土 (10YR3/4) 1-4多く、粗石含む。
2. 黑褐色土 (10YR2/2) 粗石、1-2少々、炭化物含む。
3. 粘褐色土 (10YR3/4) 1-4多く、粗石、炭化物含む。
4. 黑褐色土 (10YR2/2) 1-4、粗石少々。
5. 粘褐色土 (10YR3/0) 1-4粗石や多い。炭化物、粘度性、含む。
6. 黄い黄褐色土 (10YR4/3) しまりなし。
7. 黑褐色土 (7.5YR3/0) 粘土少々、炭、粘土含む。
8. 粘褐色土 (7YR3/4) 粘土、炭、粘土含む。

9. 黑褐色土 (10YR2/2) 灰層。
10. 黑褐色土 (10YR4/1) 粘土層、カマド地。
11. 黄褐色土 (10YR5/0) 地山。1-3作り出し、カマド地。
12. 黑赤褐色土 (7YR3/4) 粘土、灰、炭化物。
13. 粘赤褐色土 (7YR3/0) 粘土、炭化物少々。
14. 粘褐色土 (10YR3/0) 1-4、粗石多い、粘土粒少々。
15. 黑褐色土 (10YR2/0) 1-4、粗石多い、粘土粒子少々。
16. 黑褐色土 (10YR4/1) 粘土層。
17. 黑褐色土 (10YR3/0) 黒色と褐色の混合土。
18. 黄い黄褐色土 (10YR4/3) 1-4多く、黑褐色土含む。
19. 黄褐色土 (10YR3/0) 1-3層。
20. 黑褐色土 (10YR2/2) 1-4少々。

H 3号住居址実測図



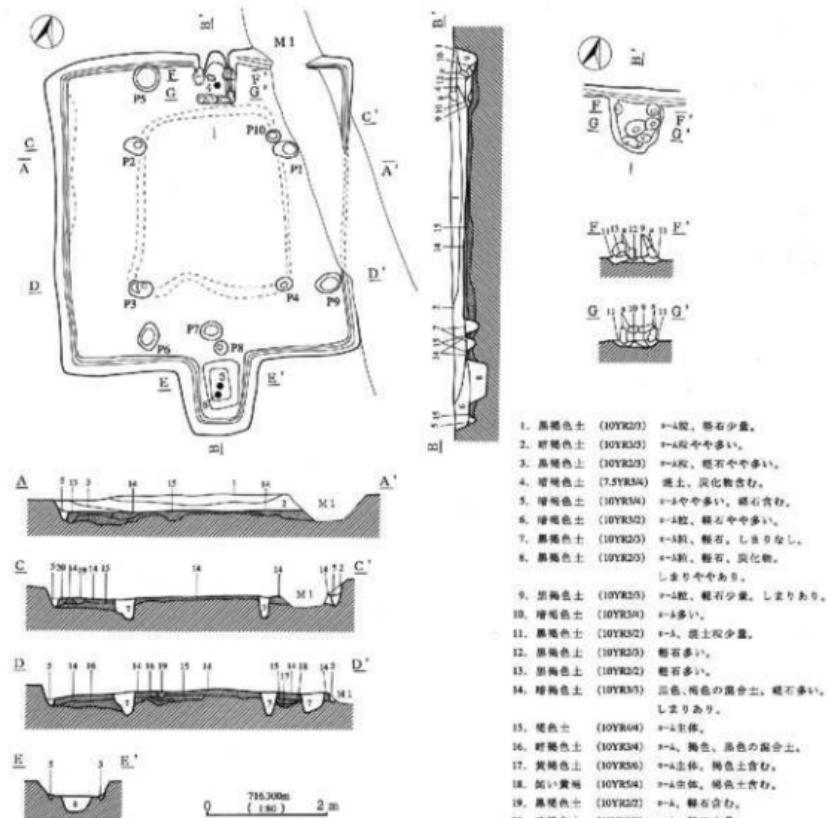
H 3号住居址遺物実測図

番号	地盤	形態	口幅cm	底面cm	底高cm	測定・文		地質-剖面	番号
						測定	文		
1	土師器	坪	[14.4]	丸底	3.5	口縁側ナメ 外底へ引け 内底へナメナメ		60	赤土YR6/6暗紅褐色
2	土師器	坪	[13.6]	丸底	3.5	口縁側ナメ 外底へ引けナメ 内底へナメナメ		70	赤土YR6/6暗褐色
3	土師器	坪	[13.3]	丸底	3.5	口縁側面 内底へ引け 内底へナメナメ		80	赤土YR6/6暗褐色
4	土師器	高坪?	[13.2]	4.2	3.4	口縁側ナメ 内底へ引け 底部へ引け 内底へ色濃い引け 底高範囲:		80	赤土YR6
5	土師器	鉢	[14.8]	[10.0]	1.2	外底へ引け 口縁側ナメ 内底へ引けなし		95	赤土YR6/6暗褐色
6	土師器	鉢	[11.8]	丸底	11.5	内底へ引け 口縁側ナメ 内底へ引けなし		90	赤土YR6/6暗褐色
7	土師器	鉢	[12.5]	2.8	14.2	口縁側ナメ 外底へ引けナメ 内底へナメナメ 底部へ引け		90	赤土YR6/6暗褐色
8	土師器	鉢	[10.5]	2.8	21.2	口縁側ナメ 外底へ引けナメ 内底へナメナメ		75	赤土YR6/6暗褐色
9	土師器	鉢	[20.1]	—	—	口縁側ナメ 外底へ引け 内底へナメナメ 輪郭有り		80	赤土YR6/6暗褐色
10	土師器	鉢	—	3.9	—	外底へ引け 内底へナメナメ		85~95	赤土YR6/6暗褐色

H 3号住居址遺物観察表

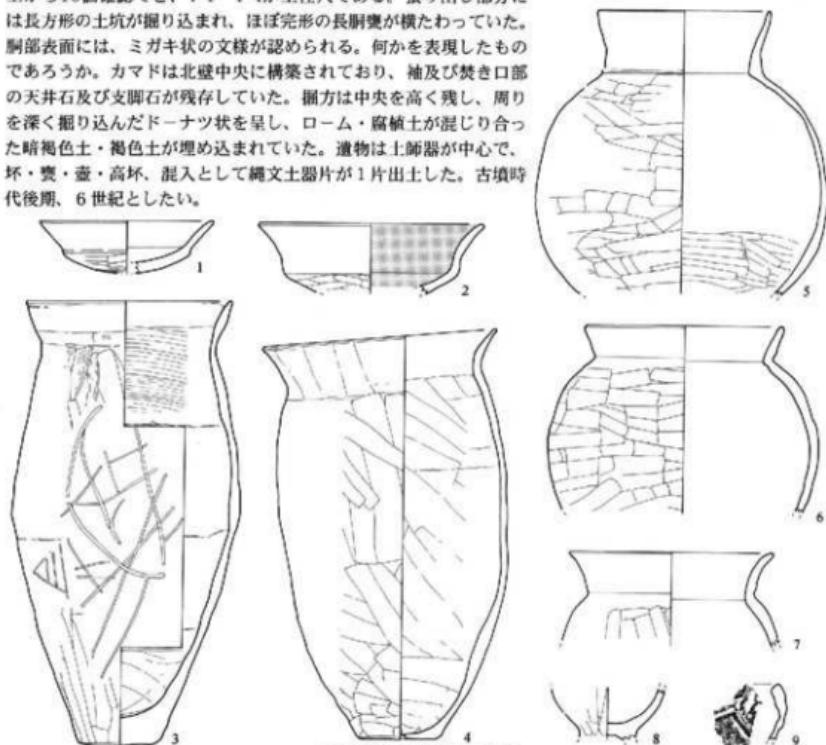
H 4号住居址

遺構は対象地中央付近に位置し、M 1に切られ、D 1を切る。平面形態は方形で、南壁中央に方形の張り出し部を持つ。規模は東西4.6m、南北5.0m、張り出し部を含め6.0m。確認面から床面までの深さは30cm内外を測る。覆土は黒褐色。暗褐色土が壁際から流れ込んだ状況で交互に堆積していることから、自然堆積である。



H 4号住居址実測図

る可能性が伺える。床面は硬質で土間状を呈し、張り出し部を含めた壁際に周溝が存在する。ピットは床面上から10個確認でき、P1～P4が主柱穴である。張り出し部分には長方形の土坑が掘り込まれ、ほぼ完形の長脛甕が横たわっていた。胸部表面には、ミガキ状の文様が認められる。何かを表現したものであろうか。カマドは北壁中央に構築されており、袖及び焚き口部の天井石及び支脚石が残存していた。掘方は中央を高く残し、周りを深く掘り込んだドーナツ状を呈し、ローム・腐植土が混じり合った暗褐色土・褐色土が埋め込まれていた。遺物は土器器が中心で、壺・甕・壺・高杯、混入として繩文土器片が1片出土した。古墳時代後期、6世紀としたい。



H 4号住居址遺物実測図

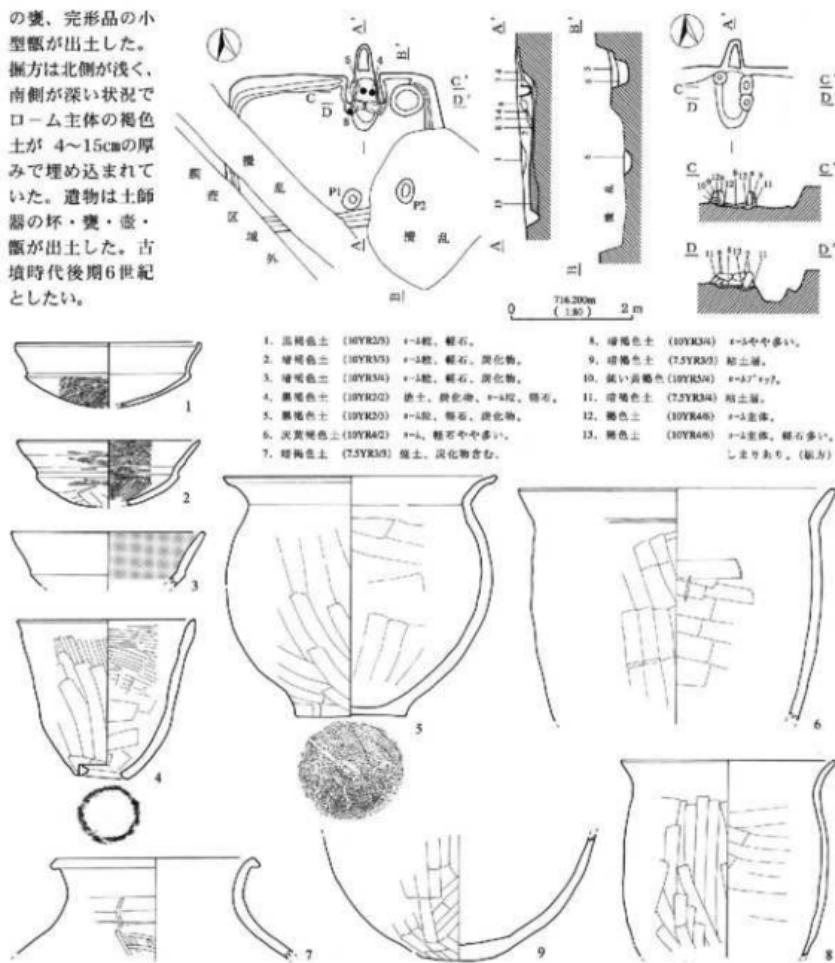
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	参考文	測定値-部位	備考
1	土器器	壺	[142]	丸底	-	口縁側カブ 内腹へり付 内底へリ脚付付	直溝-口縁側片	内底7.5cm/側面
2	土器器	壺	[186]	丸底	-	口縁側ナギ 内カク付 内底へリ脚付	直溝-口縁側片	内底7.5cm/側面-側付
3	土器器	壺	16.8	6.6	36.6	口縁側ナギ 内腹へリ脚付 ハチ付の立脚 内底へリナギ 楔溝付	側入立脚	側入立脚
4	土器器	壺	[15.5	6.0	33.5	口縁側ナギ 内カク付 内底へリナギ 内腹へリ脚付	-	内底7.5cm/側面-側付
5	土器器	壺	[143]	-	-	口縁側ナギ 内腹へリ付 内底へリナギ	側ノリヘリ脚付片	内底7.5cm/側面
6	土器器	甕	[16.6]	-	-	口縁側ナギ 内腹へリ付 内底へリナギ	側ボ-口縁側片	内底7.5cm/側面
7	土器器	壺	[16.6]	-	-	口縁側ナギ 内腹へリ付 内底へリナギ	側ボ-口縁側片	内底7.5cm/側面
8	土器器	高杯	-	-	-	内腹へリ脚付 内底へリナギ	耳脚側片	内底7.5cm/側面
9	土器器	壺	-	-	-	口縁・口縁側脚付・口縁側脚・内腹側脚・穿孔	口縫側片	底又は側

H 4号住居址遺物観察表

H 5号住居址

本住居址は南側コーナー付近を大きく掘乱によって破壊されている。平面形態は東西方向に長いやや扁丸の長方形である。規模は東西3.4m、南北2.3m、確認面から床面までの深さは北壁最深部で25cmを測る。覆土は北壁方向から黒褐色土・暗褐色土が流れ込んだ状況で堆積していることから自然堆積である可能性が伺える。床面は硬質で土間状を呈し、壁際に周溝が存在する。ピットは床面上で2個確認できたが主柱穴であるかは不明である。北東コーナーには径56cm、深さ20cmの土坑が存在し、貯蔵穴と考えられた。カマドは北壁や東寄りに粘土・石材を利用して構築され、両袖、焚き口部の天井石が残存していた。火床付近から土器器

の壺、完形品の小型瓶が出土した。掘方は北側が浅く、南側が深い状況でローム主体の褐色土が4~15cmの厚みで埋め込まれていた。遺物は土師器の杯・壺・壺・瓶が出土した。古墳時代後期6世紀としたい。



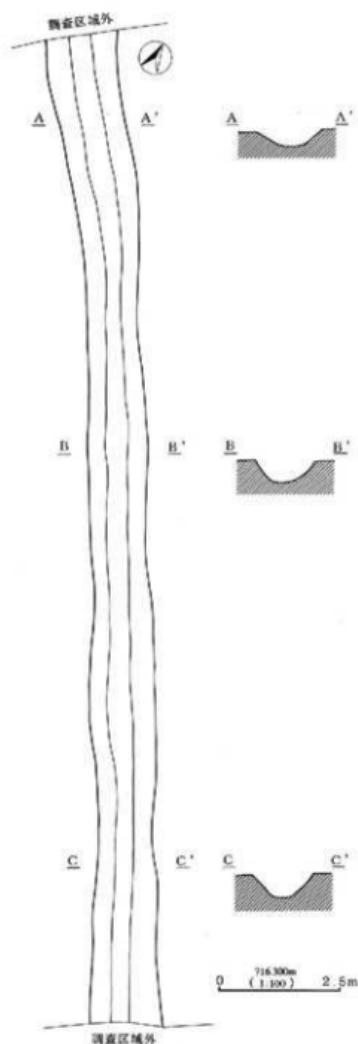
H 5号住居址・遺物実測図

番号	種類	形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	測定方法	測定文	保存状況	備考
1	土師壺	壺	[14.4]	高脚	26.4	口縁横ナギ 内底脚へ内側へカブリ 内脚へカブリ	40	八片割付7.5YR7.0-8.0	
2	土師壺	壺	15	高脚	25.4	口縁横ナギ 外脚へ内側へカブリ 二脚 二脚へ内脚へカブリ	48	八片割付7.5YR7.0-8.0	褐色
3	土師壺	壺	[14]	—	—	口縁横ナギ 外脚へ内側へカブリ 内底脚内側へ内側へカブリ 二脚	42	外山13.5YR7.0-8.0(4片)	褐色
4	土師壺	壺	14.6	4.4	33.1	口縁横ナギ 外脚へ内側へカブリ カビナビ内底脚へカブリ クラシナビ(底脚膨ら)	58	外山13.5YR7.0-8.0(1片)	褐色
5	土師壺	壺	12.8	8.1	19.8	口縁横ナギ 外脚へ内側へカブリ 内脚へカブリ	29	外山13.5YR7.0-8.0(1片)	褐色
6	土師壺	壺	20.1	—	—	口縁横ナギ 外脚へ内側へカブリ 上二脚 内脚へカブリ	断面~1口縫隙片	外山13.5YR7.0-8.0(1片)	褐色
7	土師壺	壺	11.2	—	—	口縁横ナギ 外脚へ内側へカブリ 上二脚 内脚へカブリ	断面~1口縫隙片	外山13.5YR7.0-8.0(1片)	褐色
8	土師壺	壺	17.6	—	—	口縁横ナギ 外脚へ内側へカブリ 内脚へカブリ	59	外山13.5YR7.0-8.0(1片)	
9	土師壺	壺	—	6.1	—	外脚へ内側へカブリ 内脚へカブリ 底脚へ内側へカブリ	底脚~回復	外山13.5YR7.0-8.0(1片)	

H 5号住居址遺物観察表

M 1号溝跡

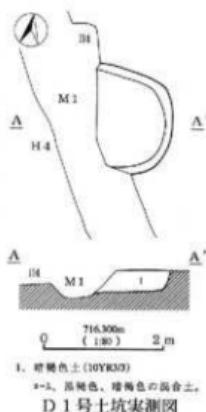
遺構は調査区中央をおよそ南北方向に掘り込まれ、H4、M1を切る。断面形態は逆「ハ」の字の斜面を持ち、底面は平らである。規模は確認面上での幅1.2~0.84m、底面幅0.25~0.4m、確認面からの深さは北で浅く、南に向かって緩やかに深さを増し、30~50cmを測る。遺物は出土しなかった。古墳時代の住居址を切ることから、これ以降に掘り込まれた遺構と考えられる。



M 1号溝跡実測図

D 1号土坑

遺構は調査区中央付近に位置し、H4、M1に切られる。平面形態は残存状況から隅丸の方形と思われる。規模は残存規模で東西1.3m、南北1.6m、確認面からの深さは36cmを測る。覆土は黒褐色土と暗褐色土の混合土単層であることから人為的な埋土が行われたと思われる。遺物は出土しなかった。時期はH4に切られることから、古墳時代後期以前の遺構であろう。



1. 黒褐色土 (NOYR03)
2-3. 暗褐色、暗褐色の混合土.
D 1号土坑実測図



調査風景（西から）



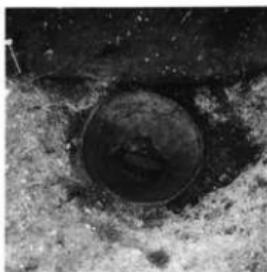
上直路遺跡Ⅲ全景（北西から）



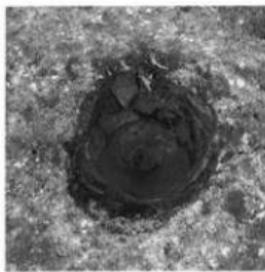
H 1号住居址全景（南西から）



H 1号住居址南東壁際遺物出土状況



H 1号住居址北側炉跡



H 1号住居址南側炉跡



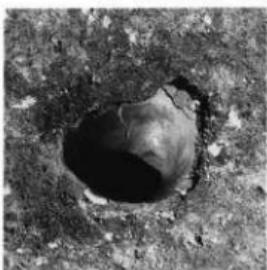
H 1号住居址東壁際遺物出土状況



H 1号住居址掘方（南西から）



H 2号住居址全景（北西から）



H 2号住居址炉跡



H 2号住居址遺物出土状況



H 2号住居址遺物出土状況



H 2号住居址遺物出土状況



H 2号住居址遺物出土状況



H 2号住居址掘方（北西から）



H 3号住居址全景（西から）



H 3号住居址カマド（西から）



H 3号住居址掘方（西から）



H 4号住居址全景（南から）



H 4号住居址カマド（南から）



H 4号住居址南壁張り出し部遺物出土状況(1)



H 4号住居址南壁張り出し部遺物出土状況(2)



H 4号住居址南壁張り出し部遺物除去状況



H 4号住居址カマド掘方（南から）



H 4号住居址掘方（南から）



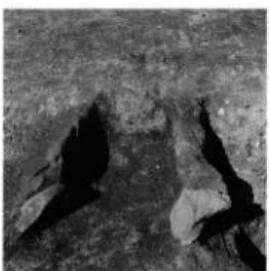
H 5号住居址全景（南から）



H 5号住居址カマド（東から）



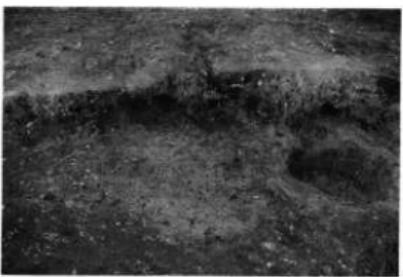
H 5号住居址カマド遺物除去後



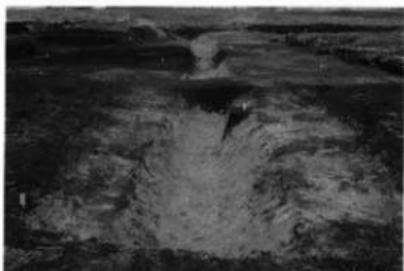
H 5号住居址カマド天井石除去後



H 5号住居址カマド袖粘土除去後



H 5号住居址カマド掘方



M 1号溝跡（南から）

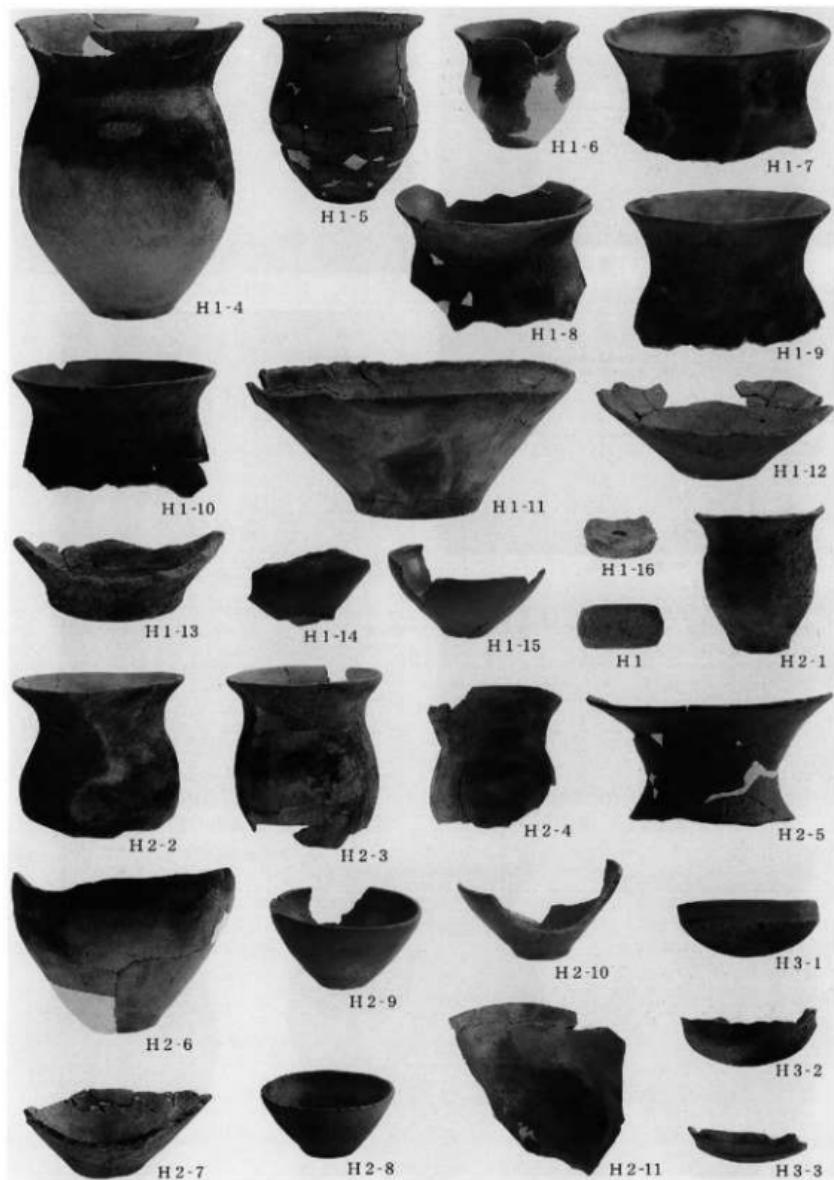


H 4号住居址出土遺物ミガキ状様？(H4-3)

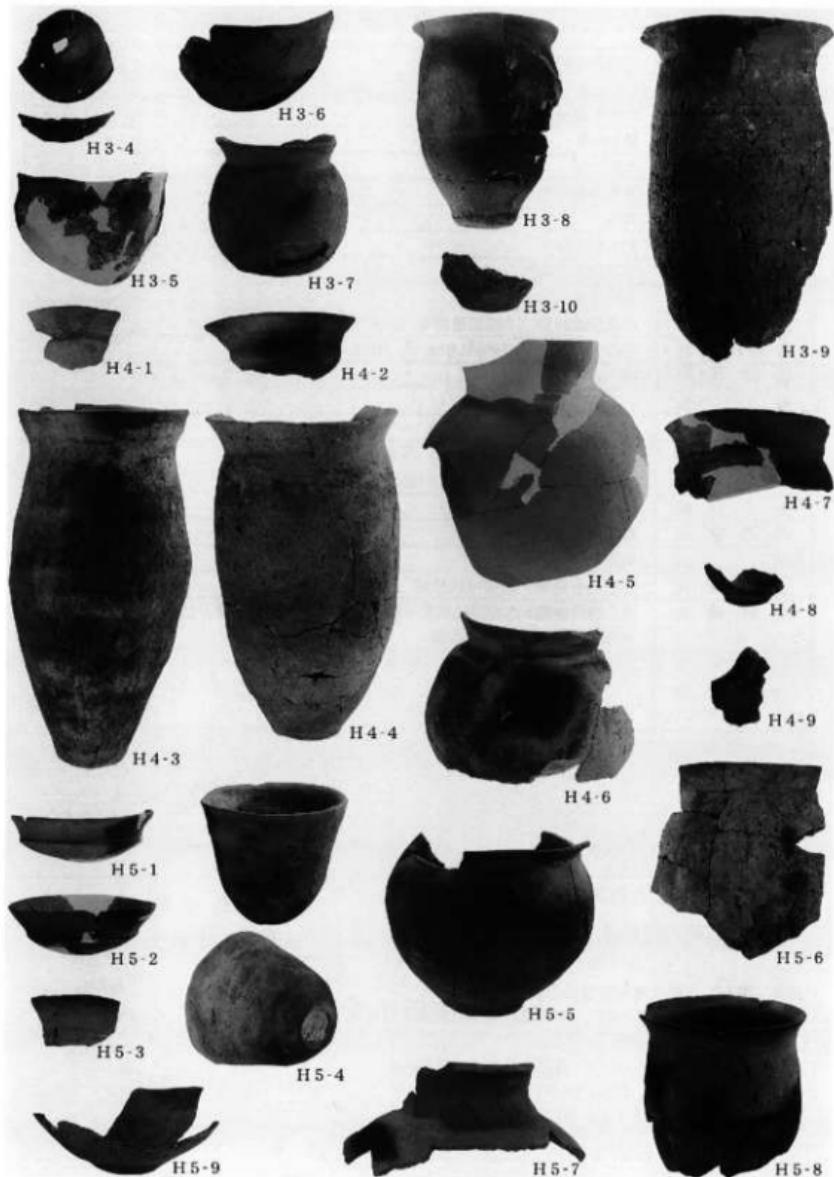
D 1号土坑全景（南から）



H 1号住居址出土遺物



H 1 · 2 · 3 号住居址出土遺物



H 3 · 4 · 5 号住居址出土遺物

報 告 書 抄 錄

書 名	枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ
ふりがな	びわざかいせきぐん かみすぐじいせきⅢ
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第144集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2007. 3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ (IBKⅢ)
遺跡所在地	佐久市岩村田字上直路1086-1, 1086-3
遺跡番号	41
緯度	39.48.34
経度	36.16.29
調査期間	2006.10.5～2006.10.20 (現場) 2006.10.23～2007.3.24 (整理)
調査面積	340m ²
調査原因	集合住宅建築
種別	集落址
主な時代	弥生時代後期／古墳時代後期
遺跡概要	弥生時代後期+古墳時代後期-竪穴住居址5軒+溝跡1条+土坑1基-繩文土器+弥生土器+土師器+石器
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第144集

枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ

2007年 3月

編集・発行 佐久市教育委員会
 〒385-8501 長野県佐久市中込3056
 文化財課
 〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
 TEL 0267-68-7321
 印刷所 キクハラリンク有限公司

